





「ただいまお散歩から戻りましたあ〜♪」
「もうすぐ夏ですね！夜になったのに少し汗かいちゃいました♪」

「ワンちゃんも楽しかったみたいですよ♪いっぱい色々な人を笑顔にして♪」
「ほら、ちゃんと帰ったらご主人様にご挨拶しないとダメだよ！
もー、いつもちゃんと教えてるのにいい！」

ピル！

ズル

「そうそう♪ちゃんご挨拶できて偉いねー♪
提督はもう人じゃなくて照月のワンちゃんなんだから
ちやんと言うこと聞かないと捨てちゃうよ♪」
「ふふっ♪じゃあ、ワンちゃんを犬小屋に戻してきますね…って、どうしたんですかご主人様？」
「えっ!?今夜は照月がご主人様のお相手をするのですか!!わあ♥本当ですか!」
「やったよ提督!ご主人様が照月のことを抱いてくれるんだって♥あっ、そうだよ」

「提督、犬小屋に戻る前にご主人様が挿入しやすいよう
照月の準備を手伝ってくれる?もちろん手伝ってくれるよね♥」

ジャブ...

「あっ♡いいいよ♡パンツの上からペロペロ舐めて照月のおマンコを沢山濡らしてね♡」
「直に舐めちゃダメだよ♪照月に許可なく触っていいのはご主人様だけなんだから♡」

「いひひ♪こうしていると本当のワンちゃんみたい♡」
「んーん、自分じゃない人のセックスのために女の子のおマンコをペロペロしてるなんて
ワンちゃん以下のゴミくずだよね♡」



「あんっ♡すっごいハアハア言ってる♪照月になじられて興奮しちゃったのかな？」
「そうだよね♪提督はお散歩中もみんなに笑われて泣きながら勃起してるくらいの変態ワンちゃんだもんね♡」

んっ♡

「今だってほら♪その情けないおチンポを勃起させて…もしかして照月とシテみたいの♪」
「あはは♪ワンちゃん癖に何言ってるの♪」
昔ならともかく今の照月はご主人様のモノで、提督とは絶対にセックスなんてしないよ♡」

私
ムムムム

ちゅ
ちゅちゅ
ちゅちゅ

第十六駆逐

「んっ、あっ、あっ♡…ふふっ♪もう十分かな♪」
「もういいよ提督♡照月のおマンコ、もう十分濡れたから♡」

「ほら、早く退いて！照月は今から♡主人様に抱いてもらうんだから♡」
「ふふっ♪じゃあ♡主人様♡最後の準備があるからちよつと待っててくださいね♡」

じわっ



「せっかく、折角ご主人様が抱いてれるんですから、照月もちゃんと本当の姿にならないと♡」
「んっ、ああんっ♡この快楽が全身を駆け巡る感じ♡」

「照月の体と心がご主人様で満たされてるみたいで、
やっぱりこっちの姿のほうが照月は好きです♡」
「いひひ♪準備完了です♡」

「お待たせしましたご主人様♡もう照月は準備万端ですので、いつでも挿入できますよ♡」
「えっ、なぜわざわざ元の姿に戻って散歩に行つたのかですか？」
「クスツ♪だってその方が楽しいじゃないですか♪」
元秘書艦に首輪をつけられて散歩されてる提督の悔しそうな顔、最高ですよ♡」

ドゥン♡

「えー、酷いですよ！照月をこんな女にしたのはご主人様じゃないですか♡
それ、よ、り♡早くご主人様のおチンポをください♡」



「んああああああんっ♡♡入ってきましたあ♡」
「さすがご主人様のおチンポ様あ♡照月のおマンコにピッタリです♡」

めく♡
めく♡

ヒィ♡
ん♡
ん♡
♡

「その短小おチンポのワンちゃんとは大違いです♡」
「あっ♡めんね♡比べること自体が間違ってたね♡提督がご主人様に勝てるわけがないよね♡」

「あっ♡あんっ♡やっぱりすごい！照月の赤ちゃんの部屋まで届いて無理やりこじ開けてくる♡♡」
「あっ…ううんっ♡ダメエ！気持ちよすぎて照月変になっっちゃうよお♡」
「こんな素敵なおチンポで貫かれたらどんな艦娘だってご主人様にメロメロになっっちゃう♡」

はっ♡

あっ♡

おっ♡
おっ♡

おっ♡
おっ♡

「はっ♡はっ♡あうんっ♡ご主人様あ♡照月もうイッちゃいます！
照月のおマンコにせーしくださー♡」



「あつ、あつ、あああああああああああああああああああああ♡♡♡♡」
「…っ、はあつ♡はあつ♡しゅごい…照月の中に入りきらなくてせーしがあふれてきてる…♡」
「もつとお…♡もつとくださいご主人様あ♡」
「…ふえっ？ワンちゃんを犬小屋に戻さなくていいのかですか？」

「あんっ♡せっかく盛り上がったのはい…そうだ♪」
「提督♪一人で戻れますよね♪」
もし、寄り道したり変なことをしようとしたら秋月姉に言いつけちゃうから！…いひひ♪」

ゴ
ッ
ビ
ル
ド
ン
ド
ン

ド
ン
ド
ン

ド
ン
ド
ン





第十六驅逐









第十六驅逐









